令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立歌島小学校の結果概要

国語・算数とも全国平均を下回る結果であった。国語では「知識・技能」の観点の問題では全国平均を上回っていたが、「思考力・判断力・表現力」の観点では、とくに記述式問題に課題が見られた。算数では、「データの活用」に関しては比較的優位な結果となっているが、各領域において全国平均を下回っている。観点でいえば「思考・判断・表現」に関する観点の問題の正答率が低い。
児童質問紙調査では、「将来の夢や目標を持っていますか。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」などの質問に対する肯定的回答が全国平均より高く、「自分にはよいところがあると思いますか」などの質問で全国平均を下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【算数】
「問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ」等、選択式や短答式の問題においては比較的正答率が高いものの「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうか」を見る問題等、記述式の問題においては、知識を組み合わせながら、適切に言語化することが難しいという課題が見られる。

【国語】
「言葉の特徴や使い方に関する事項」等、「知識・技能」の観点の問題の正答率が高い。漢字の表記に関わる問題等において、毎年、漢字検定に取り組んできた成果が着実に表れている。日常的に読書に親しんでいるかが問われる問題の正答率も高く、全校および地域ボランティアも交えた継続した読書習慣への取組の成果が表れている。また、短答式の問題の正答率は高いが、記述式の問題の正答率が低く、「書くこと」「読むこと」に課題があるといえる。

質問調査より

「将来の夢や目標を持っていますか。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に対する肯定的回答が全国および市平均より高く、将来や地域社会などに視野を広げられている。また「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」という質問に対する肯定的回答も全国および市平均よりも高く、とりわけ後者の質問に対しては、全国平均より16.1ポイントも高いことから、身近な学校生活に対しても一定の肯定感や安心感をもっているといえる。反対に「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対する回答は、全国平均および市平均より下回っており、自己肯定感の低さを読み取ることができる。

今後の取組（アクションプラン）

漢字検定や読書習慣の定着など、継続した取組の成果が表れている内容については、引き続き取り組んでいく。また国語および算数ともに記述式問題を不得手としている傾向から、自己の言葉で言語化し表現していく活動を多く取り入れていくことを継続して定着化させていく必要がある。とくにICT活用が優位となってきているが、「書くこと」も合わせて大切にしていきたい。そのためにも研修機会を増やし、日常的な授業の中でいかに効果的に「書く」活動を取り入れていくかを共有したい。また児童質問紙調査おける結果を受け、「困ったときに相談できる教員像」をより一層大切にしながら、小規模校ならではの柔和的で温かみのある雰囲気の強みを生かし、全学年での「たてわり活動」等を中心に、全教職員で児童の自己肯定感を高める取組にさらに尽力していく。